

2025(令和7)年度 第2号

岩国市教育委員会 生涯学習課

地域連携教育だより

いわくに地域連携教育アドバイザー

岩国市HP



つながり

大上好久

令和7年5月1日発行

Tel:29-5210

Fax:21-3456

由宇小学校



二次元コードから
閲覧可能です。

子供の幸せは 地域住民の幸せ 教職員の幸せ？

教育基本法には、第13条において「学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携および協力に努めるものとする。」と規定されています。また、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編では、「学校がその目的を達成するためには、家庭、地域社会との連携を深め、学校内外を通じた子供の生活の充実と活性化を図ることが大切である。」と述べられています。

本号では、新1年生の学校生活の支援を、地域住民が献身的に行っている由宇小学校を紹介します。

1年生の生活支援が実現するまでの流れ

- ① 教頭から、電話で、代表の方2名に依頼
- ② 代表が、団体のメンバーに依頼し、参加人数や日程等を調整
- ③ 教室等における生活支援を「更生保護女性会・手話サークル」 登下校の支援を「民生委員・児童委員」が担当

子供は、3日間だけでも、すごく成長します。毎年、驚かされるし、元気ももらいます。
＜地域住民＞

子供が、静かに一生懸命に聞いてくれます。とても可愛いです。
＜地域住民＞

自分の靴箱が分かるんだね。すごいね。傘はここに置いてね。
＜地域住民＞

紙芝居や読み聞かせは大好き。とても楽しかったよ。
＜小学生＞

学校のトイレは不安だったけど、使い方がわかってよかった。
＜小学生＞

先生の話をよく聞いていたね。
＜地域住民＞

連絡袋はちゃんと出したよ。
＜小学生＞

生活支援を始めて3年目になるそうです。紙芝居をしている時、担任教師が連絡帳にある保護者の言葉に返事を一生懸命に書いていました。教師と地域住民のチームワークの良さを感じました。

子どもの安全がとても気がかりです。少しでもお役に立てればと思います。
＜地域住民＞

入学式の次の日から3日間、優しく丁寧に接してもらい、子供たちは幸せです。電話一本で計画から実践まで地域の皆様の手で行われ、感謝しかありません。
＜森本 校長＞

地域住民の優しい言葉かけときめ細かな動きが印象的でした。子供は学校生活に必要な基礎的な生活様式を、短期間に確実に学び、安心した表情になっていました。その姿を見ている地域住民や担任教師は笑顔であり、子供の成長を支える喜びをともに味わっているようでした。「地域とともにある学校」そのものでした。

